

令和8年2月20日

保 護 者 の 皆 様

枚 方 市 立 杉 中 学 校
校 長 畑 克 延

令和7年度学校教育自己診断の結果・分析のお知らせ

向春の候、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校教育にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。

さて、昨年11月にご協力いただきました「学校教育自己診断」の結果、およびその分析についてお知らせいたします。

参考:今年度の学校経営目標、および「めざす生徒像」

<学校教育目標> 「じりつ・共生・チャレンジ」

<めざす生徒像>

- (1) 自ら学び、考え、行動できる生徒（自立・自律）
- (2) 仲間とともに学び、考え、行動できる生徒（共生）
- (3) 勇気をもってチャレンジできる生徒（チャレンジ）

1. アンケート回収率 生徒 82.6% (670名/795名)、保護者 42.0% (334名/795名)

2. 結果の概要と分析

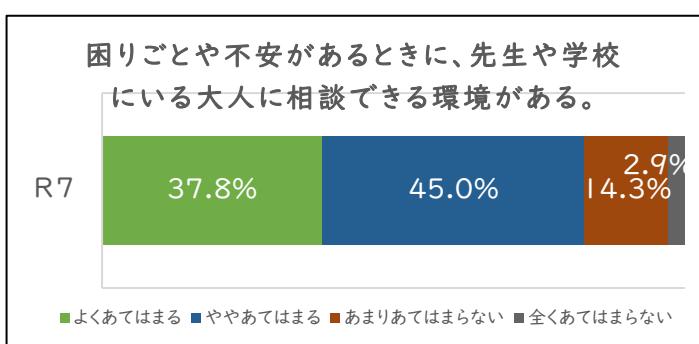
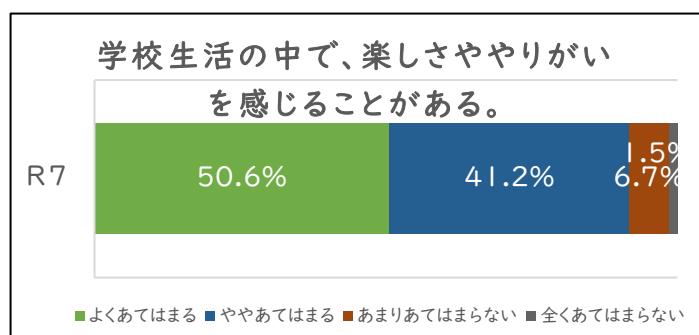
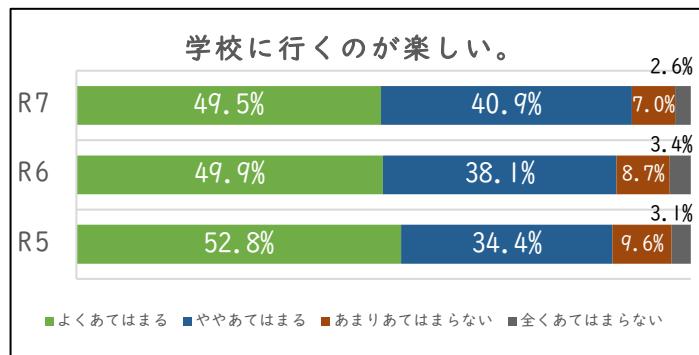
※グラフの数値で、少数点以下の数字を切り捨てるため、合計が100%にならない場合があります。

(1) 生徒

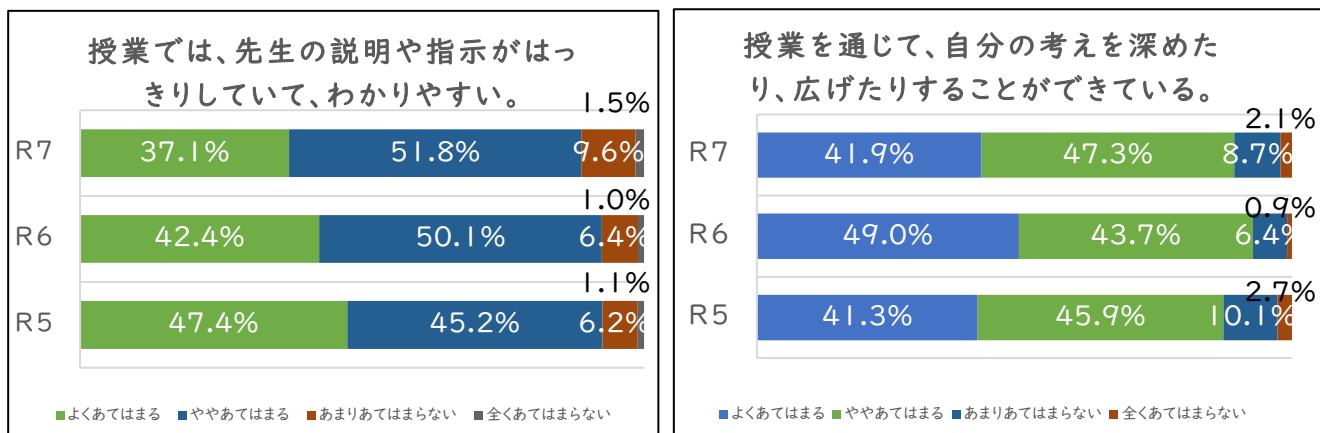
①学校生活、教職員との関係について

例年、本校で重視している「学校へ行くのが楽しい」「やりがいを感じる」の回答結果ですが、今年度も、約9割の生徒が肯定的な回答です。また、「困りごとや不安に対する学校能対応状況については、82%以上の生徒が肯定的に回答しました。比較的高い数値ではありますが、昨年度の同様項目（「困ったときにはいつでも相談にのってくれる」）との比較では、肯定的数値が10ポイントほど低い結果となっています。

それぞれの項目で、否定的な回答（「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」）の割合については、（この度のアンケートに回答していない生徒が一定数いることも含め）真摯に受け止めなければなりません。教員の子どもたちへの対応が、年々浸透していると感じられますが、「(だから)学校が楽しい！」と子どもたちが実感し、いずれの質問項目の数値も上がるよう、これからも日々改善を図っていきます。



②授業・学習状況について（参考）授業改善にかかる研究テーマ：「自ら計画的に学ぶ生徒の育成」



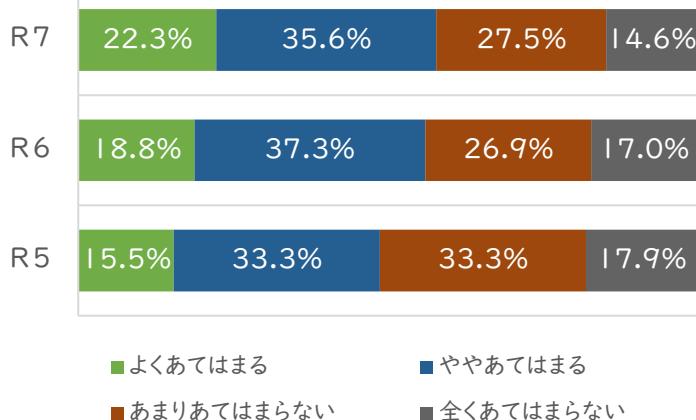
本校では、「協同学習」を授業に取り入れ、授業改善を図っています。「協同学習」とは、グループワークの形を基本として、教科の学習を通して、学び方や他者とのつながり方を育成する学習スタイルです。「教師に教わる」のではなく「自ら学ぶ」ことを重点としており、学習に対して主体性が育まれることで、学習理解が進むということがねらいです。

「授業はわかりやすい」の強い肯定は年々、減少傾向にあります。また、「自分の考えを深めたり広げたりすることができる」については、ここ数年、肯定評価8割はキープするものの、強い肯定での改善の余地がうかがえます。

家庭学習の状況に関する項目について、「家で、自分で計画を立てて学習している」の質問では、肯定的回答について、ここ数年改善がうかがえます。これについては、普段の授業で見通しを持たせる場面を意識させたり、長期休業中に計画を立てさせたりなどの取組が功を奏してきたと評価します。また、「学校の勉強時間以外に、普段、1日あたりどれくらいの時間、学習をしているか」の質問においても、ここ数年を比較すると、やや改善傾向にあるといえます。

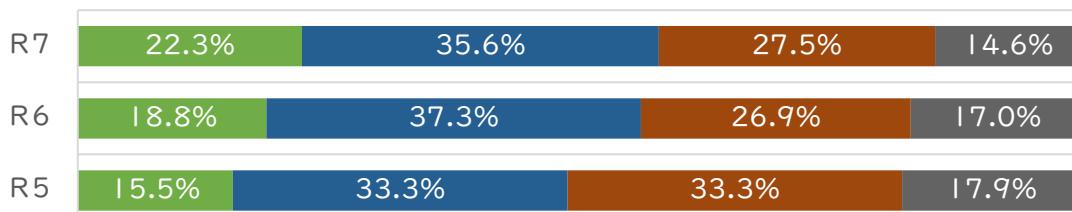
引き続き課題ととらえ、宿題（家庭学習の題材）の工夫や計画と振り返りの定着など、研究を進めてまいります。

家で、自分で計画を立てて学習している。



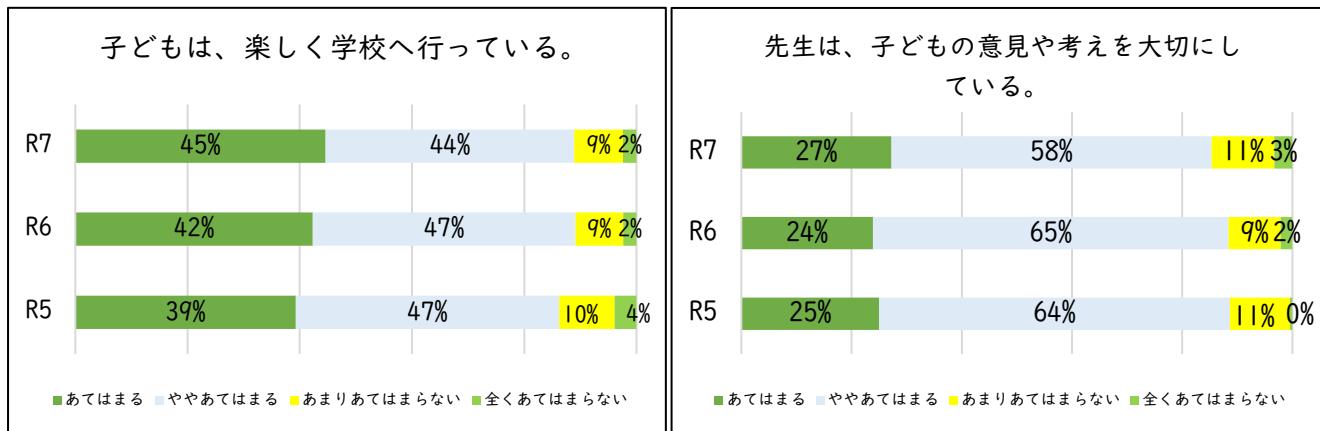
学校の勉強時間以外に、普段（月～金曜）、1日あたりどのくらいの時間、学習していますか。

■2時間以上 ■1～2時間 ■1時間から30分 ■30分未満



(2) 保護者

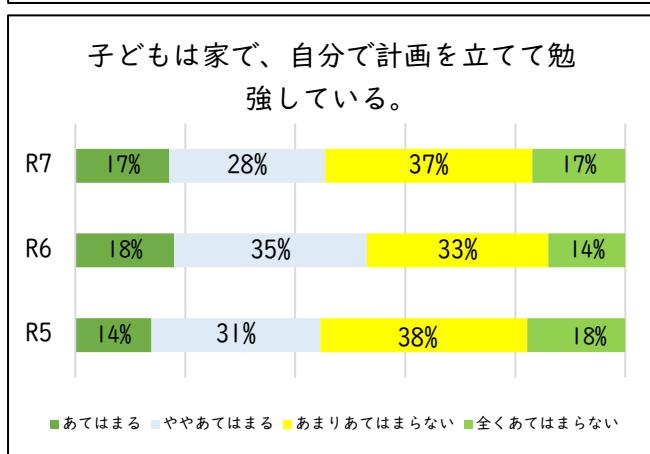
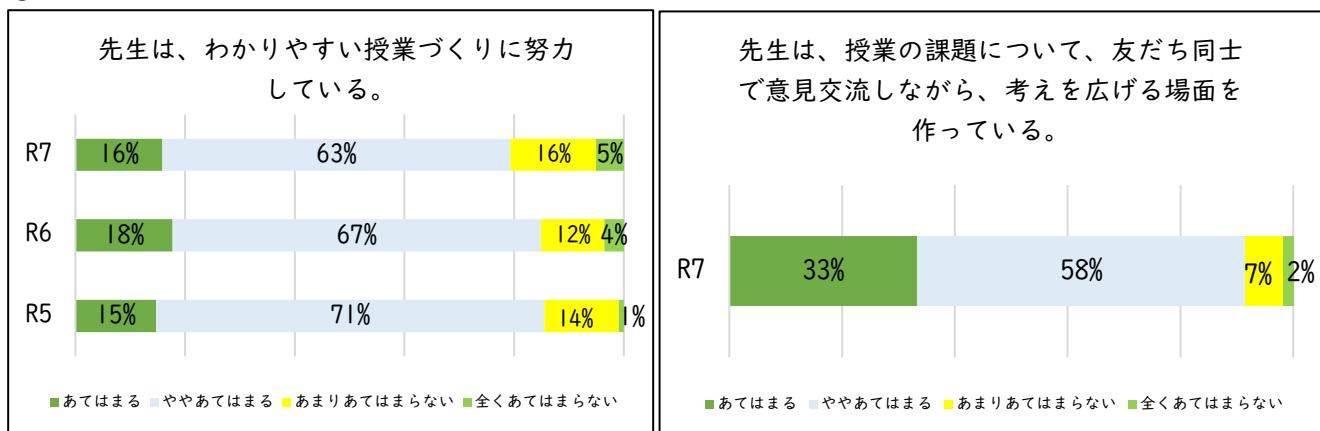
①子どもの様子・先生の様子、学校との連携



「子どもは、楽しく学校へ行っている」の回答では子どもたちの回答とほぼ同じく良好な結果となりました。「よくあてはまる」の強い肯定割合は、昨年度比+3ポイントです。

「先生は、子どもの意見や考えを大切にしている」の回答では、強い肯定がやや増加しました。生徒対象の同項目でも良好な結果と言えるので、引き続き、子ども主体の学校づくりとその指導を継続していきます。

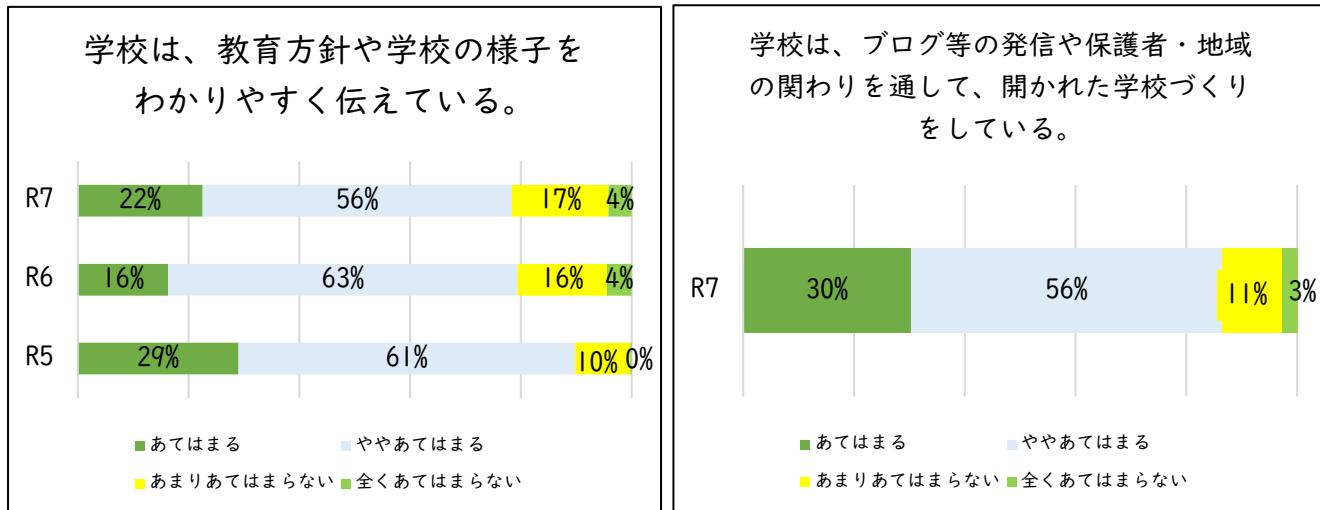
②授業・家庭学習について



経年では、肯定的評価は一進一退です。生徒は授業がわかりやすいと約90%が回答している割には、保護者の方の実感とはやや相違があります。生徒が「わかった」「できた」が、家庭で保護者と共有されることで、生徒の評価に近づいていくものと考えます。また、「意見交流し、考えを広げる場面」の評価については、本校で推進している「協同学習」の意義を、一定ご理解いただけつつあるものと分析しています。

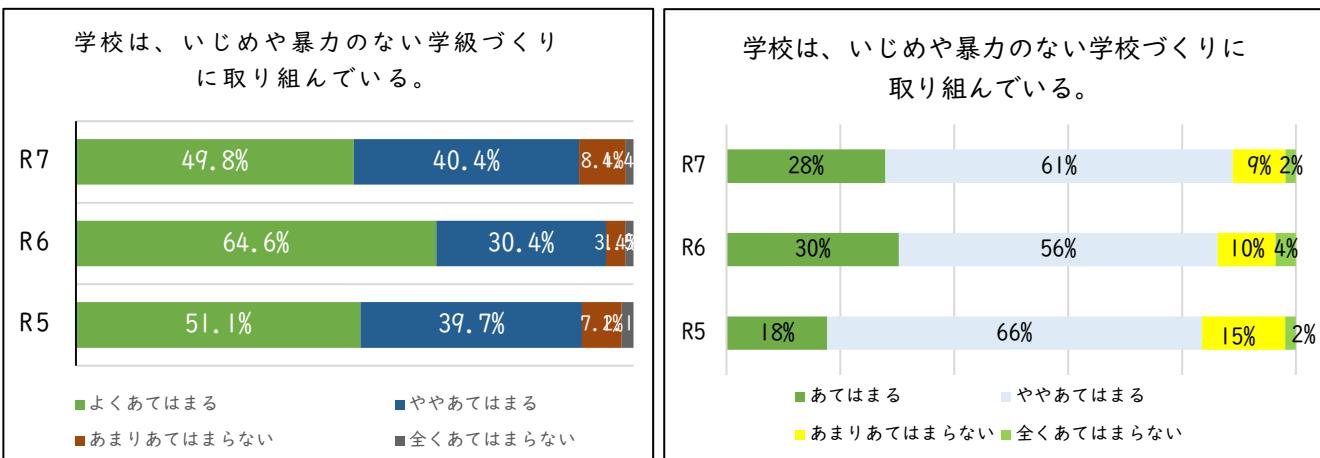
一方、家庭学習については、生徒側とも例年課題となっています。学校では、自学自習・家庭学習の充実を重点課題におき、懇談でも課題を共有する場面を設けるなどして、計画を立てて行うことの促しを働きかけてきました。引き続き、授業と家庭での学習を往還するような課題設定や、自分で計画を立てて取り組む主体的な学習内容を提示していくことを進めます。

③情報発信について



教育方針について、強い肯定が昨年度より大きく改善しました。引き続き、「開かれた学校づくり」とは、どういった状態かという定義と併せて、発信に努めてまいります。

(3) 同項二者比較 <「いじめ・暴力防止・の取組について>



昨年度より注視している項目の一つです。昨年度は、生徒・保護者ともに顕著に改善しましたが、今年度は、生徒で強い肯定値が後退し、トータルでも約 5 ポイント肯定値を下げました。一方、保護者は、トータルで、3 ポイント伸ばしました。

学校では昨年度に引き続き、「いじめ防止ポスター」やいじめ防止をねらいとする学級活動・ソーシャルスキルトレーニングの取組をおこない、ブログなどでもこまめに情報発信しました。

いじめや暴力のない学校は、ひろく「安全・安心な学校」であり、生徒たちの居場所があるということに他なりません。お互いの違いを認め合い、日々おこる様々な人間関係のもつれやトラブルにも、主体的に解決に臨める環境と生徒の育成を、保護者の方と連携して行っていきたいと考えています。

3. おわりに

生徒・保護者への調査により、成果を得られた項目については継続して充実させていきます。また、明らかになった教育活動の課題については真摯に受け止め、それを、研究や改善をすすめ、よりよい教育活動をめざします。

この調査にご協力いただいた保護者の皆様、生徒の皆さんご協力ありがとうございました。今後ともご協力ををお願いいたします。